現役時代から活動参加を

三井ボランティアネットワーク事業団　山内理事長に聞く

三井グループ各社のOB・OGを中心にボランティア活動を展開する三井ボランティアネットワーク事業団（三井Vネット）。その活動は留学生との国際交流をはじめ、環境保全、文化、教育、福祉など多岐にわたる。シニア層の生きがいを支援する社会貢献団体として設立されてから二四年。超高齢化社会のなかでシニアボランティアが果たすべき役割とコロナ禍における今後の活動のあり方について、就任二年目の山内卓理事長（元三井物産副社長、東芝取締役）に話を聞いた　（吉澤大輔）

アジアの成長を実感　海外でボランティアも

海外経験の豊富な山内理事長は三井物産時代に駐在した米国やシンガポールなどでもボランティア活動に参加した。

山内氏　物産生活で最後の駐在ではアジア大洋州三井物産社長を務めていたので、中国極東を除くアジア全域を担った。ちょうど、アジアが大きく成長する時代で、特に思い出深いのがミャンマー。二〇一一年に軍事政権から民政に移行し、投資ができるようになった。軍政の頃は昭和の日本のような印象で走っている車もとても古くクレジットカードも携帯電話も使えなかったが、この数年間で急激に近代化を遂げた。ミャンマーが花開いた時代にアジアを担当できたことは幸運だった。海外ではボランティア活動に参加するのは自然で、私もサンフランシスコのゴールデンゲートブリッジを歩いて渡り寄付をする活動や地元の小学校のボランティア活動に参加したり、シンガポールで海岸清掃などに加わった。三井物産はシンガポールの水資源確保活動のスポンサーにもなっていたのでボランティア活動にもよく誘われた。

設立趣意の精神に感銘　高齢化社会に備える

三井Vネットの活動には関わってこなかった山内理事長だが、設立趣意書に目を通し、グループ全体で高齢化社会に備える精神に感銘を受ける。

山内氏　三井物産時代は営業畑だったので、当事業団の活動はほとんど知らず、「聞いたことがある」程度だったが、海外でもお世話になった前理事長の八木厚さん（元三井住友海上火災保険常務執行役員）に次期理事長を打診され、引き受けた。二四年も前にシニアの生きがい支援を目的とし、グループのボランティア団体を設立した二木会と三井業際研究所の先見の明には敬服する。理事長に就任してから発足経緯や過去の報告にも目を通したが、当時から来るべき高齢化社会を予測して組織として具体的に備えた。これは個社としてやることはあっても企業集団としては類を見ない。設立趣意書には「三井グループ全体の事業として始めるが、将来はグループの枠を超えた活動を目指して広く社会に開放すべし」とある。今はまさにその状況にあり、登録会員約一、五〇〇名のうち、三分の一にあたる約五〇〇名が非三井系の会員。趣意書の設立精神にある通り、この活動は三井グループを超えて社会に広がり、年間の延べ活動人数は一万名を超える。現役社員のなかで知名度はあまり高くはないが、OB・OGからすれば非常に有意義と感じている。

留学生と会員は「親子」　コロナ禍で「恩返し」も

三井Vネットの主要活動の一つは留学生との国際交流。山内理事長は会員と留学生は親子のようで右も左もわからない留学生を会員がサポートしてくれる。私も海外駐在では初めての国で現地の人から習慣などを色々教わり、とても助かった。その恩は今も忘れない。留学生も同じで、昔お世話になった「里親」には恩返ししたくなるもの。コロナ禍では日本のマスク不足を耳にした台湾や中国の元留学生が里親の会員に親密な関係と感じた。

山内氏　関東では東大、横浜国大、駒沢大など、関西では神戸大などで実施している留学生との一対一交流は、来日し施設に寄付された。

また、コロナ禍で帰国できなくなった妊婦の留学生に対して会員が親身になって出産をサポートした。私も会員と留学生の交流会に参加したが、会員は息子や孫世代の留学生に愛情を持って接しており、強い相互信頼関係にある。現在はコロナ禍でオンラインなどの活動の制約はあるが、これからも引き続き留学生支援を続けていきたい。

このほかにも当事業団の活動は清掃や文化・医療施設の案内など多岐にわたるが、コロナ禍で多くの活動は休止を余儀なくされた。今年は神奈川県大磯町の児童養護施設・エリザベスサンダースホームで毎年実施している慈善コンサートもやむなく延期した。当事業団が主催し、昨年で一三回目を数えるが、毎年、二〇〇名分のチケットが完売し、サックス奏者・小林洋平さんをはじめとする楽団が出演してくれる。児童養護施設と交わる機会は少ないが、当事業団ではコンサート以外にも毎月の清掃など色々な面で施設の運営を支援している。私も昨年の慈善コンサートに加わったが、聴衆や出演者など皆さんの善意が伝わり、とても感動したのを覚えている。感染拡大策を講じた上で、再開したい。

会員の高齢化が課題　新規会員企業も勧誘

設立から二四年余り、これまで順調に発展を遂げた三井Vネットだが、課題も少なくない。

山内氏　課題は大きく三つある。一つ目は会員の高齢化。企業の定年延長に伴いリタイアする年齢が高くなった。高齢になってから初めて参加すると難しいこともある。現役のうちから会員登録し、少しでもボランティアに関わってもらいたい。月一回でも活動に加わることでボランティアに慣れ親しんでほしい。

二つ目の課題は会員会社の減少。これは企業業績などの影響もあるが、CSR、ESG、SDGsなど企業活動を通した社会貢献が主流になりつつある。OB・OG個人の社会奉仕を推奨支援する当事業団と企業の間に若干の温度差が見られるのは否定できないが、発足以来の精神とボランティア会員の尊い活動を支援する趣旨で、三井グループ各社には引き続き新規入会とOB・OG会員勧誘の支援をお願いしたい。

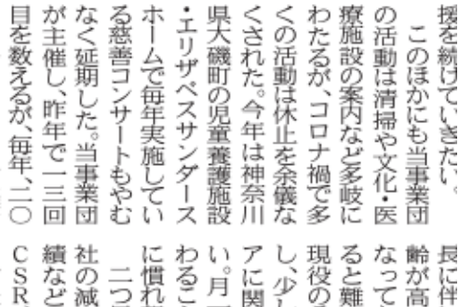
課題の三つ目はコロナ禍。ボランティア活動は人と会わずにできることは少ない。広島平和記念公園の清掃や司馬遼太郎記念館、旧三井家下鴨別邸の案内など一部の活動は再開している。提供先の団体から「活動を再開してほしい」との要望も来ている。当事業団の活動は長年にわたるものばかりで、「コロナでやめました」とは言えない。逆にコロナ禍があってこそ、これくらい我々の活動が求められているかが見えた。

アンケートで高評価　会員・提供先も「満足」

昨年は三井Vネットの貢献度を確かめるためのアンケートを実施。内外から高い評価を得た。

山内氏　ボランティアは善意の押し売りではいけない。相手の客観的な評価の裏付けがなければ活動は続かない。そのため、昨年は会員及び活動提供先の二三団体にアンケートを行った。結果を見ると、会員の九割が「充実している」と回答した。団体からも「三井Vネットの支援はなくてはならない」など高い評価ばかり。「三井グループのボランティア団体なので、ボランティア経験のない人でも安心して紹介できる」などの声もあった。三井系の現役・OB・OGの皆さんがボランティアを知るきっかけになれば嬉しい。

恒例の慈善コンサート（昨年の模様）



再開する清掃活動（広島平和記念公園）

山内　卓氏（やまうち・たかし）略歴　昭和五一年一橋大学商学部卒業、同年三井物産入社。平成二〇年執行役員鉄鋼製品本部長、同二二年常務執行役員物流本部長、同二五年専務執行役員アジア・太洋州本部長、同二六年副社長執行役員アジア・太洋州本部長、同二七年常勤監査役、令和元年東芝取締役、三井ボランティアネットワーク事業団理事長に就き、現在に至る。六九歳。神奈川県出身。

三井ボランティアネットワーク事業団　一九九六年、三井業際研究所の提言を受けてシニア層の生きがいを支援し、三井グループの社会貢献に資することを目的に設立。現在の会員会社は三井系二〇社。事務所は東京（本部）、大阪（関西支部）、広島（中国支部）。参加者は三井系のOB・OGを中心にその家族など。登録会員数は約一、五〇〇名、年間延べ活動人数は約一万名超。入会資格や入会金、年会費は不要。詳細はホームページ（http://www.mv-net.com/）まで。

主な活動内容　①国際交流＝留学生及びその家族を対象に生活相談や日本語及び文化の学習等を目的とした「一対一交流」、国内企業の工場見学会、日本の伝統芸術・文化体験活動等、②環境保全＝河川や海岸の清掃活動、③医療・福祉＝病院の受付業務及び治療費精算業務の補助活動、児童養護施設での清掃活動、運営支援、チャリティコンサートの実施等、④文化・教育＝各地の資料館及び記念館内の清掃活動及び維持管理補助、書損じはがき、未使用切手を回収、発展途上国の児童の奨学金捻出活動等